

「平成 25 年度・緑のカーテンプロジェクト活動報告」

JAXA より提供を受けた「宇宙を旅したアサガオ種子」2 代目を被災直後の仮設住宅の住環境に少しでも役立てたいという思いから、環境支援の一環として開始した「緑のカーテンプロジェクト」活動は、3 年目に入り仮設住宅団地によって取り組みに差が生じ始めている。すなわち取り組み 2 年目の釜石・小佐野仮設団地では、ツル物は敬遠され花苗の提供を所望され対応した。本来の暑熱対策としての目的から逸脱した取り組みではあったが、被災者の心の潤いを提供する意義ある活動であった。



釜石・中妻町仮設団地も緑のカーテンの要望は住民の 3 分の 1 程度にとどまった。

一方大槌町の仮設住宅は、前年 2 カ所の仮設住宅団地に加えて新たに 2 カ所が取り組むことになり、意識の高さが感じられた。また、新に野田村への緑のカーテン提供をおこなった。

本年度ご協力を頂いたプロジェクトメンバーは、下記の通りであり、それぞれ資金提供・物資提供・車両提供・人的支援等ご協力を頂き心からの謝意を表します。

- ・ NPO 法人環境パートナーシップいわて（緑のカーテンプロジェクト）
- ・ 岩手県立大学総合政策部（平塚明教授・渋谷晃太郎教授）
- ・ NPO 法人緑のカーテン応援団・東京（鈴木雄二理事長）
- ・ NPO 法人日本ピオトープ協会・東京（東北北海道地区佐竹一秀委員長）
- ・ あさがおネットワーク・釜石（加藤直子代表）
- ・ NPO 法人遠野まごころネット・大槌（白澤良一副理事長）
- ・ 小岩井農牧（株）小岩井農場

設置活動対象仮設住宅は以下の 8 か所となった。



- 釜石市 中妻町仮設住宅団地
108 戸（3 年目）
- 釜石市 小佐野仮設住宅団地
45 戸（2 年目）
- 釜石市 鵜住居地域（アサガオ苗提供）（初年）
- 大槌町 小槌第 1 仮設住宅団地
100 戸（3 年目）

大槌町	大槌仮設住宅団地	45 戸	(3 年目)
大槌町	小槌第 7 仮設住宅団地	40 戸	(初年)
大槌町	小槌第 8 仮設住宅団地	60 戸	(初年)
野田村	野田中学校仮設住宅団地	20 戸 (設置)	(初年)

(対象戸数計 418 戸+)



アサガオ苗は、県立大学平塚明教授・渋谷晃太郎教授のご協力で約 1100 ポットの苗を種子から生産・ご提供を頂いた。

ゴーヤ苗については、NPO 法人緑のカーテン応援団より、資金の提供のほか各仮設住宅あてに合計 675 ポット無償送付頂いた。

カーテン用のネット・培養土などは釜石で被災したお花屋さん「花あしらい(浦嶋祥子代表)」

を主体に調達した。

資材の搬入と設置作業は、6 月 9 日(日曜日)に、プロジェクトメンバー・仮設住宅住民有志及び釜石市ボランティアセンターの協力を得て行った。

大槌地域は、資材の搬入のみ行い 後日臼澤良一氏の指揮で遠野まごころネット・仮設住宅住民により全戸設置された。

新規に設置する事となった野田村中学校仮設住宅については、6 月 13 日(木曜日)に資材を搬入、後日自治会長さんのお世話で仮設住宅住民によって希望住宅に設置が行われた。

これによる、夏季の住宅の熱暑対策効果は、気温の変動が大きく数値で表すことは難しいが、確実に日隠効果はあり、また住民同士の話題を提供する事にもなり、設置の共同作業も合いまって、殺風景であった仮設住宅に心の安らぎを得る事に繋がったものと思われる。



また、岩手県立大学総合政策学部においては、校舎の 4 階までの緑のカーテン設置に取り組み、つる性植物の比較や効果の確認など啓蒙を図っている。

残念な事に、釜石地区の設置作業に積極的に参加された住民の一人が、プランター植栽作業中に転倒して大腿部を骨折するというアクシデントが発生、軽作業とはいえ今後一層の注意をもってご協力頂く事を心掛けたい。

次年度以降の活動については、大槌地区での復興住宅への設置も視野に枠を広げた活動を継続し、被災地の住環境改善と生活空間に潤いを提供する事により、結果的に CO₂ 削減に繋げて行く事としている。

(プロジェクト代表・野澤日出夫)